



洋上アルプス

No.254 平成28年5月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



『手作り図鑑』屋久島町内の教育機関・図書館に配付!!

屋久島森林生態系保全センターでは、今回屋久島の樹木214種を紹介した『屋久島で使える手作り図鑑』を作製しました。

本図鑑は、当センター職員がこれまで撮りためた写真をもとに作成した手作りで、樹木の見分け方にポイントを置き、木々をあまり知らない人でも葉のつき方や形などから見分け方の手がかりが掴めるように工夫



手作り図鑑

されています。また、屋久島で主に見られる場所や標高、花期と結実期、名前の由来、主な用途、ヤクシカが好きな樹木か嫌いな樹木かなどを掲載してあります。

この図鑑を多くの人たちに観ていただこうと島内の図書館など公共機関に配付しました。特に児童生徒の皆さんに地元屋久島の素晴らしい自然が身近にあることを知って貰うことと、教育現場における森林環境教育の推進を目的に、島内の高校、中学校、小学校（全15校）に配付しました。



山下所長(右)より栗生小・鶴丸校長に進呈

長野県林業大学校の南九州（屋久島ほか）研修（4月19日）

「長野県林業大学校」では、縄文杉体験登山も兼ねた「南の島屋久島の自然環境や森林・林業」と題した研修を毎年計画しています。今回は、学生20名と教授2名が訪れました。

はじめに、屋久島森林管理署会議室にて、樋口署長から「屋久島の森林・林業、世界遺産地域屋久島の豊かな自然、ヤクスギ土埋木」についてパワーポイントを使ってわかりやすく解説しました。学生たちは、樹齢千年を超える屋久杉や土埋木、その歴史のほか、ヤクシカによる被害状況、亜熱帯から冷温帯の植生垂直分布など興味深い話題に熱心に耳を傾けました。その後、一行は安房貯木場を視察、ヤクスギ土埋木が貯木場一面に並べてある光景を目のあたりにして、その材の大きさや悠久の時を重ねて茶色く色付いた積まれた材の壮観な雰囲気、森の中にかつてたたずんでいた姿を思い浮かべたようで非常に感動した様子でした。

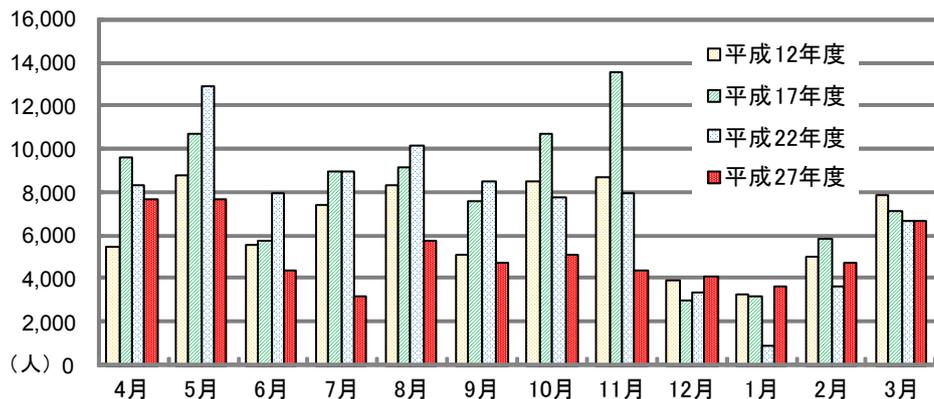
終わりに、署長から「この研修を機会に、ぜひ、研鑽を積んで林野庁職員にも挑戦してください」とエールの言葉をかけて署での研修を終え、学生たちは次の視察地へ向かいました。



熱心に目と耳を傾ける学生達

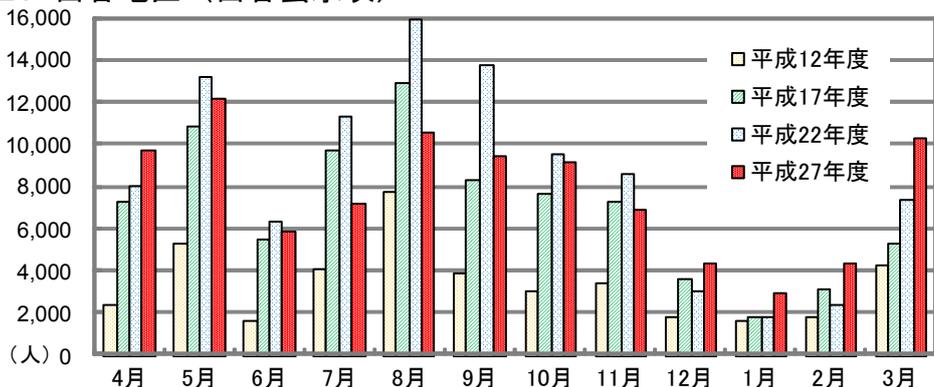
屋久島自然休養林利用者数と縄文杉登山者数

1. 荒川地区(ヤクスギランド)



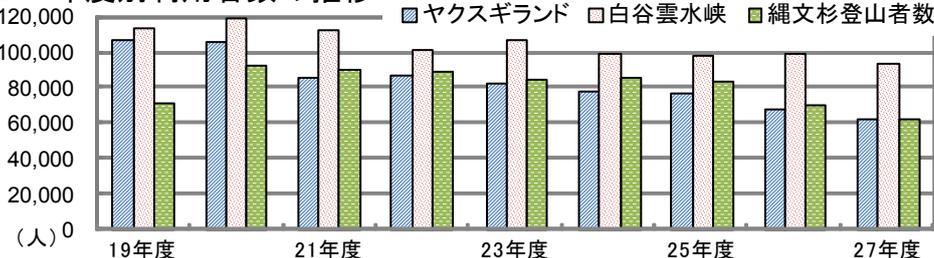
	12年度	17年度	22年度	27年度
4月	5,500	9,471	8,202	7,599
5月	8,669	10,605	12,855	7,624
6月	5,595	5,712	7,852	4,323
7月	7,368	8,900	8,876	3,162
8月	8,227	9,079	10,081	5,731
9月	5,051	7,469	8,427	4,693
10月	8,383	10,624	7,681	5,072
11月	8,615	13,447	7,889	4,371
12月	3,934	3,008	3,337	4,097
1月	3,234	3,132	842	3,640
2月	4,995	5,846	3,597	4,687
3月	7,807	7,103	6,615	6,691
合計	77,378	94,396	86,254	61,690

2. 白谷地区(白谷雲水峡)



	12年度	17年度	22年度	27年度
4月	2,410	7,256	7,925	9,625
5月	5,305	10,791	13,108	12,101
6月	1,618	5,491	6,323	5,827
7月	4,097	9,629	11,248	7,231
8月	7,699	12,798	15,853	10,522
9月	3,858	8,188	13,707	9,361
10月	3,012	7,600	9,429	9,061
11月	3,449	7,278	8,496	6,855
12月	1,769	3,593	3,064	4,341
1月	1,638	1,770	1,763	2,966
2月	1,785	3,093	2,362	4,318
3月	4,253	5,258	7,377	10,217
合計	40,893	82,745	100,655	92,425

3. 年度別利用者数の推移



	ヤクスギランド	白谷雲水峡	縄文杉登山者数
19年度	105,514	112,689	70,543
20年度	104,712	117,776	91,972
21年度	84,849	111,841	89,040
22年度	86,254	100,655	87,677
23年度	81,368	105,695	84,138
24年度	76,994	98,754	84,831
25年度	75,644	97,263	82,612
26年度	66,939	97,917	69,519
27年度	61,690	92,425	61,369

*自然休養林データは屋久島レクリエーションの森保護管理協議会より、縄文杉登山者数は環境省屋久島自然保護官事務所による。縄文杉登山者数の平成21年3～4月、平成27年1～3月は欠測期間あり。

「シャクナゲパトロール」を計画

～登山者への注意など呼びかける～

ヤクシマシャクナゲの開花時期を迎え、屋久島森林生態系保全センターでは、例年、登山者が多くなる時期に合わせ屋久島森林管理署と協力し高山植物の盗掘防止や登山マナーを呼びかける「シャクナゲパトロール」を計画しています。

(実施日: 5月23日(月)～6月3日(金))

【登山者のマナールール】

- ① ゴミは絶対捨てないで持ち帰ること。
- ② 登山道から外れないこと。
- ③ 動植物の捕獲、採取を行わないこと。
- ④ トイレは決まった場所及び携帯トイレを使用すること。
- ⑤ 宿泊する登山者は、避難小屋を使用すること。



屋久島の森とシカ (第1回)

—屋久島の森を特徴づけるシダ群落— 矢原 徹一 (九州大学大学院 教授)

私は5大陸の森を歩いて植物の調査をしてきました。その経験からはっきり言えるのは、屋久島の森は世界的に見てとてもユニークな森だということです。屋久島の森を支えているのは、豊富な雨量、中緯度の暖かい気候、そして1,936mの標高差です。大陸東岸で雨が多く、中緯度で暖かい場所は世界に4つあります。他の3つはフロリダ・エバーグレイズ、ブラジルの大西洋岸、タスマニアです。このうち、島である点と高い山がある点、針葉樹からなる温帯多雨林が発達している点で、屋久島はタスマニアに似ています。しかしタスマニアの年間雨量は、山間部でも2,700mmであり、山間部で8,000mmをこえる屋久島とは大違いです。



図1 2004年撮影

屋久島では、この豊富な雨量を反映して、林床にシダ群落が発達しています。図1は2004年に尾之間歩道で撮影したシダ群落の写真です。屋久島では以前はごくふつうにこのようなシダ群落が見られました。このようにシダが群生する森は、世界的にはきわめてめずらしいのです。図2は、東南アジア各地で調査したデータにもとづく、シダ植物が全種数に占める割合を示すグラフです。この図からわかるように、屋久島ではシダ植物の種数が3割をこえる場所が各地に見られます。しかし、シダ植物の種数が3割をこえる場所は東南アジア全域でも限られた場所にしかありません。ジャワ島のゲデ山

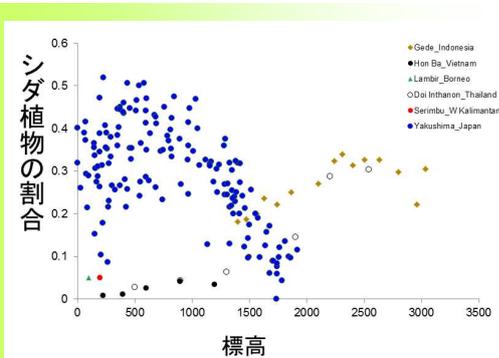


図2



図3 2013年撮影

しかし、ヤクシカによる摂食量の増加によって、屋久島の森を特徴づけるシダ植物群落は急速に失われています。図3は、図1とほぼ同じ場所で2013年に撮影した写真です。林床を覆いつくしていたシダ群落は、見る影もなく消え失せてしまいました。ヤクシマタニイヌワラビなどいくつかのシダ植物は、絶滅危惧種としてレッドリストに掲載され、実際にほとんど発見できなくなっています。ヤクシカの管理を進めるとともに、柵による緊急措置によって、将来シダ群落を回復させる可能性を確保する必要があります。(つづく)

屋久島の植物



アオガシ (ホソバタブ)
(クスノキ科)

本州中部以西に分布する常緑高木。白谷雲水峡・森林軌道のような山地の谷沿いで見られる。大枝は横に広がり、そこから小枝が上向きに分かれる。葉裏は緑白色で側脈はわずかに隆起するが目立たない。よく似たバリバリノキの枝は上向きに長く伸び、葉裏の側脈は明らかに隆起する。花期4〜5月。

屋久島生態系モニタリング



屋久島南部等の植生垂直分布調査（平成25年度）

●標高 1200 ㍎プロット（湯泊歩道沿い）

[高木層] 第1高木層としてツガ、スギが優占、第2高木層としてサカキ、ヤブツバキ、カクレミノが混生。

[亜高木層] サクラツツジが最も多く、サカキ、シキミなども多い。ヤブツバキ、ヤクシマシャクナゲ、ハインキ、ソヨゴなどが混生。

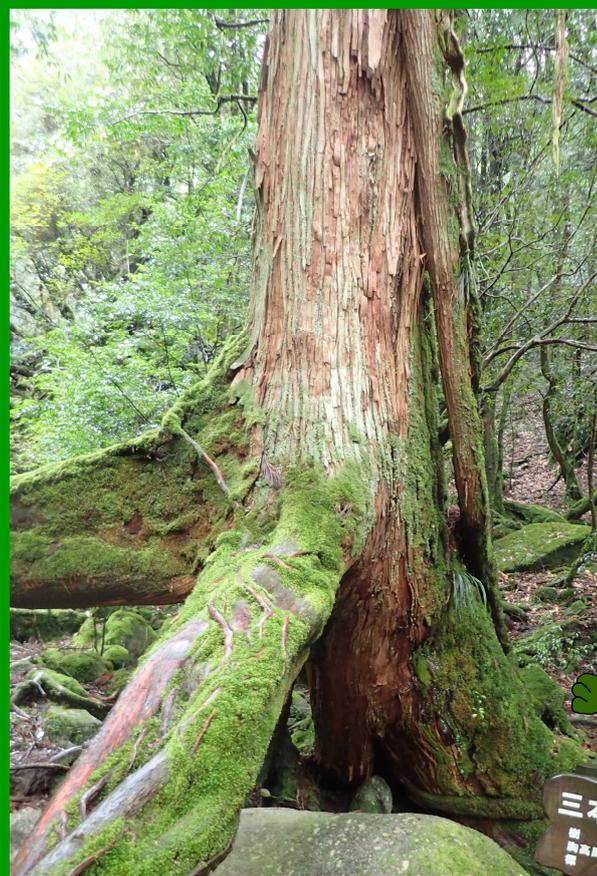
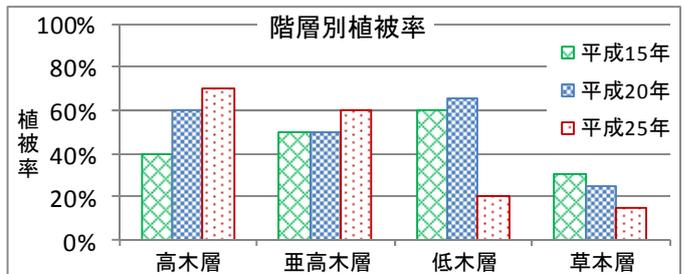
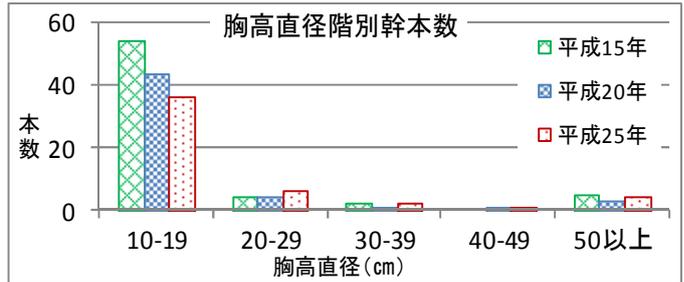
[低木層] ハインキが最も多く、サクラツツジ、シキミ、サカキなどがそれに続き出現。個体数は少ないがイヌガシ、アオキ、クロバイ、ヤマグルマも出現。

[草本層] 前回調査時点からシカの採食圧が強く、植被率は低くさらに減少する傾向にある。

[胸高直径階別幹本数] 胸高直径10-19cmの本数が平成15年度から20年度にかけて減少したが、自然間引きが起きたことが予想された。プロット内での本数は、全体では殆ど変化はなかった。

[階層別植被率] 高木層、亜高木層の植被率は上昇傾向であるのに対して、低木層と草本層の植被率は、平成15年度及び20年度と比較して、低木層は約3分の1、草本層は約半分となり、林冠部の発達に林床が暗くなったことが推測される。被圧による影響以外に、ヤクシカの影響も考えられる。

[調査結果の概要] ツガ、スギが優占する針葉樹天然林。プロットは台風時の暴風を強く受ける南西向き尾根付近にあり、風害を受けた枝や梢端の折れたツガ立枯木等がある。ヤクシカの採食圧による低木層や草本層への影響のためか、低木層と草本層の植被率が減少している。



巨樹・著名木 屋久杉 三本足杉

三本足杉は、根元が三つに分かれ大きく張り出した特徴のある比較的若い屋久杉です。倒木に着生した屋久杉が転石も含め大きく抱え込み、その後、土台となった倒木や転石が押し流され現在の姿になったと思われます。

三本足杉には、ナナカマド、ヤマグルマ、カクレミノ、アクシバモドキが着生しています。



- 樹高：25.0㍎
- 胸高周囲：3.9㍎
- 樹齢：不明
- 標高：800㍎
- 場所：白谷雲水峡 奉行杉コース沿い

参考文献：屋久杉巨樹・著名木 改訂版(H11.7)